

# 令和4年度

# 鹿児島県立農業大学校評価シート

目標	課題	現 状	評価項目	※ 具体的方策	進捗状況(実績)	次年度の課題と改善策	
1 入学生の確保	学生募集活動の強化による入試応募者の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナなど社会情勢の変化</li> <li>特に令和3年度は新型コロナの影響で各種PRイベントを縮小。</li> <li>高校生の絶対数の減少</li> <li>学部・学科による応募者・入学者の変動</li> <li>令和4年度の入学者数が過去5カ年平均より25%減</li> </ul>	入学試験の応募者数 104人以上	1 学校紹介と学生募集活動の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>高校訪問 90回以上(7月までに実施)</li> <li>高校等への募集要項送付 160カ所</li> <li>高校教諭対象の説明会の開催 2回</li> <li>農大生の出身校への訪問 10校10人 随時訪問, 及び学生の派遣</li> <li>進路ガイダンス等への参加 29回以上 教育内容紹介資料等の充実</li> <li>マスコミ, 機関誌等への情報掲載 30回以上</li> <li>小中高校生を対象とした体験研修の実施 参加者50人以上</li> <li>校外販売実習等を通じた学校紹介の強化</li> <li>出前授業の実施</li> <li>学部別による募集働きかけ強化</li> </ul> 「カモン!アグリバディ」(学校紹介用リーフレット・アンケート配布)(農学部) 13,000枚 出身高校への学生の声レター送付(畜産学部)	1 学校紹介と学生募集活動の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>高校訪問 4~7月 72校 88回</li> <li>高校等への募集要項送付 7月 高校150校, 個別20カ所</li> <li>高校教諭対象の説明会 2回(5/11, 6/3)</li> <li>農大生の出身校への訪問 4校 4人 夏休みや冬休み等を活用しPR</li> <li>進路ガイダンス等への参加 21カ所 学科の取組紹介資料, 募集チラシを作成し活用・配布</li> <li>マスコミ, 機関誌等への情報掲載 学校PRやチラシ等による学生募集案内</li> <li>小中高校生を対象とした体験研修の実施 (参加者3人)</li> <li>校外販売実習等を通じた学校紹介の強化 7回</li> </ul> 学生のイベント等参加によるPR	1 学校紹介と学生募集活動の強化の継続 <ul style="list-style-type: none"> <li>学部別の募集の取り組みは, 進路に対応した情報を直接学生に伝えることができ, 入学確保に直結すると思われるので, 重点的に取り組んでいく必要がある。また今後の取り組みとして, 学生参画による学校PR活動を強化していく。</li> <li>農学部調査から農大の魅力に資格取得, 学習環境が強みであることがわかったので, 学校紹介の際にPRしていく。</li> </ul>	
				2 オープンキャンパス等, 受入による学校PR <ul style="list-style-type: none"> <li>オープンキャンパスの実施 参加者50人(5/22) 2回目(8/9)71人, 3回目(8/21)60人 計181人 (学生103人)</li> <li>高校等の視察研修の受入 8校301人               <ul style="list-style-type: none"> <li>7/12 曾於高校 2年 28人</li> <li>10/26 薩摩中央高校 1年 35人</li> <li>12/7 鹿屋農業高校 1年 71人</li> <li>12/9 市来農芸高校 PTA 18人</li> <li>12/13 国分中央高校 1年 42人</li> <li>12/16 曾於高校 1年 23人</li> <li>12/19 市来農芸高校 1年 64人</li> <li>12/22 薩摩中央高校 2年 20人</li> </ul> </li> <li>農高連携による農大の魅力発信プロジェクト 2~3年 8人</li> <li>園児や小中高校生等の視察, 実習等の受入 8/27 56人</li> </ul>	2 オープンキャンパス等, 受入による学校PR <ul style="list-style-type: none"> <li>オープンキャンパスの実施 参加者50人(5/22) 2回目(8/9)71人, 3回目(8/21)60人 計181人 (学生103人)</li> <li>高校等の視察研修の受入 8校301人               <ul style="list-style-type: none"> <li>7/12 曾於高校 2年 28人</li> <li>10/26 薩摩中央高校 1年 35人</li> <li>12/7 鹿屋農業高校 1年 71人</li> <li>12/9 市来農芸高校 PTA 18人</li> <li>12/13 国分中央高校 1年 42人</li> <li>12/16 曾於高校 1年 23人</li> <li>12/19 市来農芸高校 1年 64人</li> <li>12/22 薩摩中央高校 2年 20人</li> </ul> </li> <li>農高連携による農大の魅力発信プロジェクト 2~3年 8人</li> <li>園児や小中高校生等の視察, 実習等の受入 8/27 56人</li> </ul>		2 オープンキャンパス企画内容の魅力アップ <ul style="list-style-type: none"> <li>農大生の参画や新たな企画を追加し, より多くの生徒や家族の参加につなげる。</li> <li>農学部調査から進路決定は3年1学期が一番多いことから, 早めの募集活動を検討する。</li> </ul>
				3 地域振興局や同窓会との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>地域振興局等への情報提供の充実</li> <li>オープンキャンパスや募集要項等の配布, 学校情報の提供</li> <li>農政普及課との連携強化(4HCとの連携)</li> <li>離島での進路ガイダンスへの対応協力</li> <li>農大アシスターへの情報提供</li> <li>農大職員OB教諭への情報提供</li> </ul>	3 地域振興局や同窓会との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>地域振興局等への情報提供の充実</li> <li>オープンキャンパス, 募集要項, 募集チラシ送付及び所内会への情報提供</li> <li>離島での進路ガイダンスへの対応協力 5回 (熊毛2, 喜界1, 徳之島1, 沖永良部1)</li> <li>農大アシスターへの情報提供 2回</li> <li>農大職員OB教諭への情報提供 1回</li> <li>同窓会広報誌を活用した学校PR 1回</li> </ul>		

入学	農学部(70)	畜産学部(45)	学年(115)
R2	38	60	98
R3	59	55	114
R4	28	48	76

入学	農学部(70)	畜産学部(45)	学年(115)
R2	50%	100%	70%
R3	73%	89%	79%
R4	37%	87%	57%

＜自己評価まとめ＞  
 ・コロナ禍であったが, 学校訪問や関係機関と連携による募集・周知活動は計画的に実施することができた。  
 ・学校紹介と学生募集活動は, 各学部による新たな取り組み等により, 多くの高校生に農大の魅力を伝えることができた。  
 ・評価指標「入学試験応募者数」は目標104人以上に対し, 91人であったが前年(76人)より15人増加した。

評価指標	目標	実績	達成度	達成度
1 入学試験応募者数	104人以上	91人 推薦 49人 一般 42人	B	A: 100%以上 B: 100%未満~80%以上 C: 80%未満~60%以上 D: 60%未満

# 令和4年度

# 鹿児島県立農業大学校評価シート

R5.5.31時点

目標	課題	現 状	評価項目	具体的方策	進捗状況 注：( ) 昨年度実績	次年度の課題 と改善策
2 学生教育の充実	学生の知識・技術向上	非農業系高校出身者、非農家等の学生が増えてきており、農業に関する基礎知識に格差がみられる。 コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が不足している学生が多い。	課題解決能力向上 資格取得への取組	1 学習能力向上への取組 (1)プロジェクト学習に対する学生の意識付けと指導強化	1 プロジェクト意見発表等への取り組み 全国大会 養成課程 プロジェクト発表：優秀賞、特別賞(優良賞) 意見発表： - (優良賞) 研究過程 プロジェクト発表：最優秀賞(特別賞)	1 プロジェクト発表では、研究課程の部で最優秀、養成課程の部で優秀賞と極めて優秀な成績を収めた。意見発表でも入賞できるよう指導に取り組む。
			全国プロジェクト発表会入賞者 2名以上	(2)論文作文コンクール応募への誘導、動機付けの強化 ・校内の応募者を増やす取組として、入学当初から、学生全員に対する作文指導や少数精鋭に対する個別指導を実施。	2 論文作文コンクール応募及び入賞数 (1)第33回ヤンマー学生懸賞論文・作文 論文の部：全国応募数46編 入賞 3編(2)/4編(2) 作文の部：全国応募数446編 入賞 9編(5)/19編(8) (2)毎日農業記録賞：応募数 1(0) 入選 1(0) (3)酪農の夢コンクール：応募数 3(1) 入賞者0(1) 入選 1	2 作文の部で金賞を受賞し、論文・作文で過去最大となる12編が入選し、極めて優れた結果となった。今後も維持できるよう指導に取り組む。
			ヤンマー懸賞論文等入賞者 2名以上	(3)専攻学習や各講義による農業技術検定3級の取得 ・農業に関する基礎知識の強化	3 令和4年度卒業生の日本農業技術検定3級合格率 合格者数 29名÷受験者数 35名=合格率 82.9% (92%)	3 合格率をさらに向上させるために指導強化を図る。
			日本農業技術検定3級合格率 80%	2 各種免許、資格取得への取組 (1)資格取得の推進と意識付けの強化 ・農大マイスター顕彰制度の周知と学生集会等における学生表彰 (2)職員による希望学生に対する補習(危険物乙4)	4 各種免許・資格取得状況 延べ合格者数 974名÷卒業生 85名 =1人当たり 11.5資格(11.4) 5 合格率向上対策 (1)危険物乙4講習会の実施(有資格者による) (2)農業技術検定、農業簿記：カリキュラムによる実施 合格実績 危険物乙4(3回分)：8名/66名(延べ)=11.3%(29.1) 農業技術検定3級：29名/35名=82.9%(89) 農業簿記検定2級：2名/10名(延べ)=20.0%(0) 農業簿記検定3級：16名/50名(延べ)=32.0%(31.8)	4 免許・資格取得数は目標を達成しており、引き続き取得指導に取り組む。 5 危険物乙4の合格率は低下しており、受験者に対する試験対策の指導強化を図る。
			各種取得免許・資格数 9資格以上/人	3 農家留学研修指導 (1)専攻学習を通じて基本的な管理作業習得 (2)農家留学研修の事前研修会の実施 (3)農家留学研修日誌の模擬記帳指導及び農業機械操作の習熟度アップ	6 受入農家を招いての農家留学研修事前研修会(中止) ・事前研修(共通1日、各学科研修を実施) ・農家留学研修評価 優秀60%(57%)、普通31%(35%)、要努力9%(8%)	6 農家留学研修の事前指導を強化するとともに、受入農家との連携強化を図る。
農家留学研修評価書の総合評価(優秀) 70%以上	4 コミュニケーション力のアップ (1)各種販売等で挨拶や礼儀作法、接客能力の習得 (2)3分間スピーチ等でコミュニケーション能力の習得	7 校内販売等の実施 (1)校内販売実施数：20回(35回) (2)出張販売実施数：4回(8回) 8 3分間スピーチ実施学科(1年生) (野菜科、肉用牛科)	7 新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、徐々に校内・出張販売会の実施回数を増やしていく。			

### <自己評価まとめ>

全国プロジェクト発表会や論文作文コンクール等において優秀な成績を収めたことで、本校プロジェクト学習の質・内容の高さを内外に示すとともに、他の学生にとって良い刺激となった。今後もコンクール等への積極的な応募を促していきたい。免許・資格も1人10種以上を取得しており、就農・就業に役立つだけでなく、学生の資質向上にも繋がることから、取得指導に取り組んでいく。また、農家留学研修は、「優秀」の割合が低いため、コロナ禍で活動に制限のある中ではあるが、指導を強化していきたい。

評価指標	目 標	実 績	達成度	達成度
1 全国プロジェクト発表会入賞者	2名以上	3名	A	A：100%以上
2 ヤンマー懸賞論文等入賞者	2名以上	12名	A	B：100%未満～80%以上
3 日本農業技術検定3級合格率	80%	83%	A	C：80%未満～60%以上
4 各種取得免許・資格数	1人当たり9資格以上	11.5	A	D：60%未満
5 農家留学研修評価書の総合評価(優秀)	70%以上	60%	B	

# 令和4年度

# 鹿児島県農業大学校評価シート

目標	課題	現状	評価項目	具体的方策	進捗状況(実績)	次年度の課題と改善策																																			
3 就農・就業の進路指導の充実	進路指導充実による就農率の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>農大の目的を達成するために就農率を高める必要がある。就職、法人就農について自分の適性や進路決定に迷うことがある。</li> <li>インターンシップなどを活用して就農先を確定するなど、非農家学生の取り組みを強化する必要がある。</li> <li>農業次世代人材投資資金受給希望学生の進路に応じて、資金制度の理解や個別指導を実施する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○就農率 68% (研究科5名含む) 学生数90名 うち就農 47名(52.2%) (養成部門46名54.1%) うち自営10名</li> <li>※内定含む</li> <li>○進路確定率 95% 学生数90名 確定数 88名 88名/90名 = 97.8%</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>進路への早期動機付け                             <ol style="list-style-type: none"> <li>サポート体制の充実                                     <ol style="list-style-type: none"> <li>農業法人等との面談の実施   <ul style="list-style-type: none"> <li>就農就業相談会</li> <li>個別面談の推進</li> <li>かごしま就農就業相談会</li> </ul> </li> <li>進路決定に対する意識啓発   <ul style="list-style-type: none"> <li>進路支援セミナー</li> <li>就職研修会、ジョブサポーター面談</li> </ul> </li> <li>農業次世代人材投資資金活用指導   <ul style="list-style-type: none"> <li>資金研修会による理解促進</li> <li>申請時、給付後の個別指導</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>早い段階での学生の就農・就業に対するイメージ作り                             <ol style="list-style-type: none"> <li>意向調査、面談の実施</li> <li>就職・就農事前研修会</li> <li>求人内容等の情報提供</li> <li>休業期間中のインターンシップ</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>就農就業相談会 R4.5.31                             <ul style="list-style-type: none"> <li>農業法人：49社参加</li> <li>関係機関・団体（振興局等）：27団体参加</li> <li>法人訪問学生数 延べ429名 8.8名/法人 (夏期休暇前に法人との個別面談、インターンシップを推進)</li> <li>かごしま就農就業相談会 (1/7開催, 出席1年生11名)</li> </ul> </li> <li>進路決定に対する意識啓発                             <ul style="list-style-type: none"> <li>就職研修会 (12/6開催)                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>講師：鹿児島労働局 雇用環境・均等室</li> <li>講師：伊集院公共職業安定所</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>農業次世代人材投資資金活用指導                             <ul style="list-style-type: none"> <li>新規申請者 1年生25名, 2年生5名</li> <li>チャレンジ研修生1名 計31名</li> <li>継続者 2年生21名</li> </ul> </li> <li>早い段階での学生の就農・就業に対するイメージ作り                             <ol style="list-style-type: none"> <li>就農就業相談会 (1/7開催)                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>かごしま県民交流センター (主催：農農協会)</li> </ul> </li> <li>学生への求人情報提供：139件</li> <li>インターンシップ実施状況 (1月末現在)                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>～7月 農学部1名 畜産学部1名 計2名</li> <li>夏期休暇 農学部2名, 畜産学部4名 計6名</li> <li>9月～ 農学部20名, 畜産学部10名 計30名</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就農相談会の開催時期を早め、法人との面談を効果的に行い、早期の進路決定、また農業法人との交流促進につなげる。</li> <li>1年時からセミナー等で進路への意識付けを継続的に行う。</li> <li>学生の早期の進路決定を促進するため、面談や雇用条件等の情報提供を強化する。</li> <li>学生へのインターンシップ支援、農家留学研修でのマッチング、法人の情報収集等を強化し、学生の就農就業に向けての意識高揚を図る。</li> <li>就農以外進路選択者の将来の就農意向を把握する。</li> </ul>																																			
		<p>過去5ヶ年の就農率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>直接</th> <th>研修後</th> <th>小計</th> <th>就農率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>52(3)</td> <td>3</td> <td>55</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>57(2)</td> <td>2</td> <td>59</td> <td>69</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>55(14)</td> <td>1</td> <td>56</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>53(16)</td> <td>0</td> <td>53</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>55(14)</td> <td>3</td> <td>58</td> <td>72</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>47(11)</td> <td>0</td> <td>47</td> <td>52</td> </tr> </tbody> </table> <p>※( )はうち自営・親元就農</p>	年度	直接	研修後	小計	就農率	H29	52(3)	3	55	60	H30	57(2)	2	59	69	R1	55(14)	1	56	62	R2	53(16)	0	53	66	R3	55(14)	3	58	72	R4	47(11)	0	47	52	<p>&lt;参考&gt;</p> <p>○主な進路</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就農:47名(前年56)</li> <li>農業団体:8名(7)</li> <li>関連企業:16名(13)</li> <li>公務員:7名(0)</li> <li>一般企業等:2名(0)</li> <li>進学・研修:8名(4)</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>就職試験に対する指導強化                             <ol style="list-style-type: none"> <li>ビジネスマナー講座(接遇研修会他)</li> <li>一般常識トレーニング(1年生)</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>接遇研修会として、6月8日実施(49名受講, 15名に資料配付)</li> <li>一般常識トレーニング研修(1年生)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>通信教育を活用した一般常識の習得</li> <li>(9/28, 10/12, 11/9, 12/7, 1/11, 2/20, 3/8:7回)</li> </ul> </li> </ol> <p>1年生4名(野菜科1名, 花き科1名, 果樹科1名, 肉用牛科1名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導で学生の希望を確認し、意向に沿った研修の参加を呼びかける。</li> </ul>
		年度	直接	研修後	小計	就農率																																			
H29	52(3)	3	55	60																																					
H30	57(2)	2	59	69																																					
R1	55(14)	1	56	62																																					
R2	53(16)	0	53	66																																					
R3	55(14)	3	58	72																																					
R4	47(11)	0	47	52																																					
		<p>インターンシップ先に就職した学生</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>インターン</th> <th>農家留学</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>13</td> <td>8</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>20</td> <td>2</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>20</td> <td>6</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>9</td> <td>5</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> <p>※合計は実人数</p>	年度	インターン	農家留学	合計	H30	13	8	19	R1	9	9	14	R2	20	2	21	R3	20	6	22	R4	9	5	13	<ol style="list-style-type: none"> <li>経営基盤のない新規就農希望者の支援体制の強化(非農家等)                             <ol style="list-style-type: none"> <li>就農就業相談会等による地域との連携</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>就農相談会等による地域との連携                             <ul style="list-style-type: none"> <li>各振興局及び駐在から就農就業担当者が出席し、管内の農業情勢等について情報提供と相談実施</li> <li>(大島を除く12地域14名参加)</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の就農計画に基づき関係機関との連携を支援する。</li> </ul>												
年度	インターン	農家留学	合計																																						
H30	13	8	19																																						
R1	9	9	14																																						
R2	20	2	21																																						
R3	20	6	22																																						
R4	9	5	13																																						

### <自己評価まとめ>

農大での相談会の実施や、1年時からの意識啓発など、体系的な取組の結果、公務員・関連企業就職、進学・研修などの多様な進路が増え、評価指標の就農率は目標未達成となった。卒業時の進路確定率については目標達成した。次年度においては、意識づけのための面談や相談会の実施など継続して取り組むとともに、インターンシップ等による農業法人等とのマッチング強化、地域振興局等と連携した就農支援、就職試験に向けた研修充実など、卒業時の円滑な進路決定を目指す。

評価指標	目標	実績	達成度	達成度
1 就農率	68%	52.2%	C (76.8)	A: 100%以上 B: 100%未満～80%以上
2 卒業時点での進路確定率	95%	97.8%	A (102.9)	C: 80%未満～60%以上 D: 60%未満

# 令和4年度 鹿児島県立農業大学校評価シート

目標	課題	現 状	評価項目	具体的方策	進捗状況	次年度の課題と改善策
<b>4 情 報 発 信 の 強 化</b>	入学確保のターゲットとなる若い年齢層に魅力ある農大を発信	・これまでの農大における情報発信の取組概要 ①県HPに「学生募集」や、イベント情報（入学式、卒業式等）などの掲載 ②プロジェクト発表の入選者や学生が取り組んだ行事（農大祭等）を盛り込んだ冊子（農大この1年）を関係機関、高校等に配布 ③直近の農大生の活動状況等を盛り込んだ「アシスターレター」を卒業生等に配信 など ・上記の取組は行っているが学生の農大での活動情報が少ない。 そもそも、学生が生き生きと活躍している情報が少ない。 ⇒ 入学確保のターゲットとなる若い年齢層に魅力ある農大を発信できていないのでは？	1 県ホームページ閲覧数 【3,500回／月以上】 (R3実績：3,393回)	1 県ホームページの魅力アップ (1) HPの構成検討 ・各科の内容充実（動画の挿入等） ・畜産学部のプレ講義の新規掲載（農大の学習を体感してもらう） (2) 動画や画像によるHPの魅力アップ (3) 検索の効率化 ・閲覧の多い「校内販売情報」等に学生募集等のリンクを貼り付け	・ホームページ閲覧数の多い校内販売コーナーに農大インスタグラムへのリンクを貼り付け（R4） ・ホームページに「農大の学習を体感する」コーナーを新設し、畜産学部のプレ講義（動画）を設置（R4） ・HPの最初の画像を学校紹介用リーフレットに変更 ・ホームページ検索実績（R4） 4月：3644, 5月：3343, 6月：3336, 7月：3378, 8月：2814, 9月：2,412, 10月：3878, 11月：2656, 12月：2939, 1月：2319 平均：3072回	1 県ホームページの閲覧数の増加 ⇒ イベント等における農大ホームページ（QRコード）の紹介 ※ 内容の充実したホームページを知ってもらう取組 など
			2 公式インスタグラムフォロワー数【800名以上】 (R3実績：452名)	2 SNSを使って情報発信・PR (1) 農大公式インスタの情報発信の拡大 ① フォロワーを増やす取組 ・頻度の高いアップ（年104回） ・#キーワードをたくさんつける ・フェイスブックとの連携 ② インスタ設定済みのiPadを活用し日頃の学習の様子を発信 ③ インスタライブによる農大生の活動状況配信 (2) インスタを含むSNSの活用について検討 (3) 在学生への情報提供アプリの検討	・フォロワー数：687名（R4） 平均リーチ数 673 最大 無人トラクタ 1140 平均いいね数 78 最大 農大祭 119 フォロワー外 284 最大 無人トラクタ 692 ・リアルな農大をライブ発信（入学式・各科プロジェクト発表会、オープンキャンパス） ・YouTubeの紹介動画の再生回数（R4） カモンアグリバディ 1457回 ふるさとかごしま2022 1764回 LOVE・IT・チャンネル 1227回 ・農大インスタグラムへ投稿する職員を増やすため個別研修を実施 ・学年、学科毎にlineグループを設置して、在学生への情報を提供	2 インスタグラムのフォロワー数の増加 ⇒ 農大内の情報収集・発信体制の充実 ※ 年間アップ数（R4：104回）の維持・向上 など
			3 農大紹介ビデオ活用数 【20回／年】 ※ R3事業でビデオを作成した為、R3実績はなし	3 農大紹介ビデオ等の作成、活用とメルマガによる情報発信 (1) 農大紹介ビデオ（カモンアグリバディ等）等の活用による情報発信 (2) 「農大アシスターレター」発信	・高校の進路ガイダンスに活用（20校）（20回） ・農大の各種会議でPR動画を活用（11回） 計31回（R4） ・発行：7月、10月、1月の計3回（R4）	3 農大紹介ビデオ（動画）等の活用 ⇒ 引き続き各種行事でフル活用 など

**<自己評価まとめ>**  
 農大公式インスタグラムでの情報発信やホームページでの農大紹介動画や講義を発信し、情報提供するなど、農大の魅力について情報発信につとめた。学校訪問等で農大PRビデオを活用し、学生募集に努め、活用数は目標を上回った。インスタグラムフォロワー数は、前年度から200名以上増加した。目標値には届かなかったが農大へ興味を持つフォロワーは増えている。ホームページ閲覧数も目標値には届かなかったが、前年度と同程度となり、一定の情報発信はできたと考えられる。次年度も、魅力あるコンテンツのこまめな情報更新を行いながら、継続して農大の魅力アップにつながる情報発信の強化につとめる。

評価指標	目 標	実 績	達成度	達成度
1 ホームページ閲覧数	3,500回／月以上	3,072回	B	A：100%以上 B：100%未満～80%以上 C：80%未満～60%以上 D：60%未満
2 公式インスタグラムフォロワー数	800名以上	687名	B	
3 農大紹介ビデオ活用数	20回／年	31回	A	